

お父さんの体格って 3歳のお子さんの体格と関連する？

Inoue *et al.* Association between paternal physique and obesity in children at the age of three years: The Japan Environment and Children's Study. *J Dev Orig Health Dis.* 2025;16:e17. doi: [10.1017/S2040174424000473](https://doi.org/10.1017/S2040174424000473)

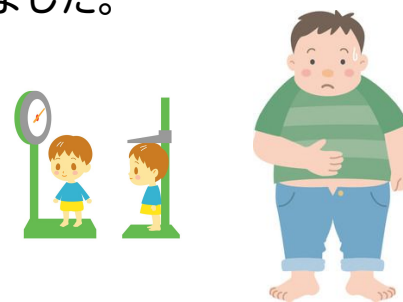


【はじめに】

発達期の子どもの肥満は将来の生活習慣病などの慢性疾患の発症に影響すると考えられています。子の肥満に関連する要因の一つとして親の肥満が示されていますが、その多くは母親側の研究であり、父親側の報告は限られています。そこで本研究では、父親の体格と子の肥満との関連性を明らかにすることを目的としました。

【調査項目】

33,291組の父親と子を解析対象としました。父親の身長およびBMIを4つに分類し、子の3歳時点での肥満率との関連性を統計学的に解析しました。



【結果】

		父親のBMI						
		<21.2	21.2-22.8	p-value	22.9-25.1	p-value	≥25.2	p-value
男児	モデル1 (95% CI)	基準	1.42 (1.21-1.66)	<0.0001	1.71 (1.47-1.99)	<0.0001	2.08 (1.80-2.41)	<0.0001
	モデル2 (95% CI)	基準	1.31 (1.10-1.56)	0.0022	1.61 (1.36-1.90)	<0.0001	1.77 (1.50-2.09)	<0.0001
女児	モデル1 (95% CI)	基準	1.22 (1.04-1.43)	0.017	1.38 (1.18-1.62)	<0.0001	1.87 (1.61-2.19)	<0.0001
	モデル2 (95% CI)	基準	1.26 (1.05-1.50)	0.014	1.39 (1.17-1.66)	<0.0001	1.66 (1.40-1.97)	<0.0001

表内の数字は父親のBMIが<21.1の時の値を基準にした時オッズ比^{※1} (95% CI^{※2})を示します。p-valueが0.05より小さい場合、統計学的に有意差があるとされます。

※1 オッズ比：ある事象の起こりやすさを2つの群で比べたもので、数字が大きいほど事象が起こりやすいことを示します。この場合、事象は「子の肥満」を指します。

※2 95% CI：「同じ調査を100回繰り返したら、95回は真の平均値が含まれるだろう」という範囲です。この区間が狭いほど推定の精度が高いとされます。

※3 モデル1：粗い解析、モデル2：父親および母親の年齢、父親および母親の喫煙状況、父親および母親のアルコール摂取量、父親および母親の最高学歴、母親のBMI、出産時の在胎週数、出産回数、妊娠方法、分娩様式、妊娠中の体重増加、婚姻状況、世帯収入、在胎週数、3歳児の身体測定時の月齢、6ヶ月齢時の授乳状況について調整後の解析。

男児と女児のどちらにおいても、父親のBMIが高いほど、子どもが3歳時点で肥満になりやすいという結果が得られました。一方で、父親の身長は男児と女児ともに肥満との関連はありませんでした。

【この調査でわかったこと】

父親のBMIと3歳時点での子の肥満が関連していることが示されました。この結果は、子どもの将来の慢性疾患の発症には母親の要因と共に父親の要因も関与している可能性を示唆しています。さらに調査を継続して子どもが成人後の疾患発症との関連性を明らかにし、父親の体格の改善によって子どもの慢性疾患を予防する新たな予防医療の創出に貢献することが期待されます。